




NST No.25

編集/衣袋 静子 太田 正孝
 近藤 健男 崎野 健一
 瀬田 拓 高橋 美貴子
 平野 洋子 宮田 剛

発行/東北大学病院NST広報係 
 TEL.7120 FAX.7147

NUTRITION SUPPORT TEAM NUTRITION SUPPORT TEAM NUTRITION SUPPORT TEAM

栄養療法における薬剤師の役割 ~TPNの使用における薬剤師の関わり~



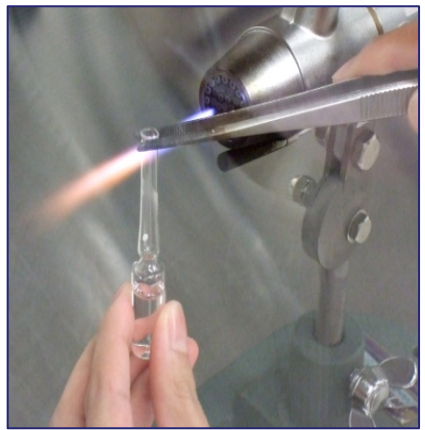
文責 崎野健一



10月3日、ホテル法華クラブ仙台において開催された宮城栄養フォーラムで、柴田近先生と宮田剛先生、それと薬剤部の崎野の講演が行われました。今回はその中で、崎野が講演した「TPNの使用における薬剤師の関わり」の内容を取り上げ、薬剤師がTPNにどう関わっているかについてご紹介します。

【IVHの無菌調製】

東2階の薬剤部の奥にある薬品調製室で、IVHの調製が行われています。調製は処方内容や検査値の確認から始まり、クリーンベンチでの混注、混注した薬剤の監査という流れで行われます。最初の確認段階においては、例えばKCL注10mEqキット10mLの処方があった場合、K⁺やC¹⁻の検査値の確認を行い、必要に応じ処方医の先生に疑義照会をしております。また、クリーンベンチではクラス100の状態が保たれております。クラス100というのは、1辺が30cmの立方体の空間の中に、0.5μm以上の粒子が100個以下という状態です。それは、日常生活空間の数百分の一から数千分の一という程に無塵、無菌な状態になります。



【院内製剤の調製】

薬剤部では市販の製剤では対応できない患者さんのために、院内製剤の調製を行っています。調製している院内製剤としては、硫酸亜鉛、塩化第二銅、亜セレン酸などがありますが、左の写真は亜セレン酸注の調製風景になります。長期に渡ってTPNを施行していると、セレンなどの微量元素が欠乏してくることがあり、その際のセレンの補給に使用します。特にセレンに関しては、欠乏により歩行困難や心筋症になる可能性があるにもかかわらず、市販されている製剤がないため院内製剤として調製しています。宮城栄養フォーラムにおいてもセレンの注射薬についての話題が出て、製薬会社に対して、製剤化をお願いをする場面がありました。

【まとめ】

以上のように、薬剤師はカテーテル関連血流感染症を防ぐ目的での無菌調製や、微量元素の不足に対する院内製剤の調製を行っています。また、それ以外でも様々な面でTPNに関与しています。例えば混合の可否の判断や、病態に応じた製剤の提案、また検査値と薬剤を結びつけた視点からの情報提供。さらには適正栄養の確認や、TPNによる合併症の予防と治療などにも関わっています。薬剤部NSTとしては今後、病院全体としてTPNが適切に使用されているかの調査や、薬剤師の視点からの様々な情報の発信を行い、TPNがより適正に行われるよう努めていきたいと考えています。



薬剤部NSTメンバー